地域で防災活動を担う青少年育成及び、彼らの視点を生かした参加型防災プログラムの構築

子ども防災マイスター

2015年度
活動報告

横浜市立大学 × ミニシティ・プラス

平成27年度 横浜市立大学 教員地域貢献活動支援事業

災害時の地域の課題と子どもたち

- 防災訓練の参加者は高齢者が多い。 ➡ こどもや保護者の参加が少ない。
- 避難所運営訓練等は、ルールを確認するだけになりがち。 ➡ 柔軟な発想による創意工夫がある「考える」訓練となっていない。
- 災害時、こどもは守られるだけの対象となりがち。 ➡ 地域の力として活躍の場が少ない。
- よこはま地震防災市民憲章では
「子どもたちの力も借りて、一緒に拠点運営を行います」
「子どもたちに、大地震から身を守るための知恵と技術、そして助け合うことの大切さを教えます」とうたっている ➡ 実際にそれを具体化していくプログラムが少ない。

「よこはま地震防災市民憲章」とは?

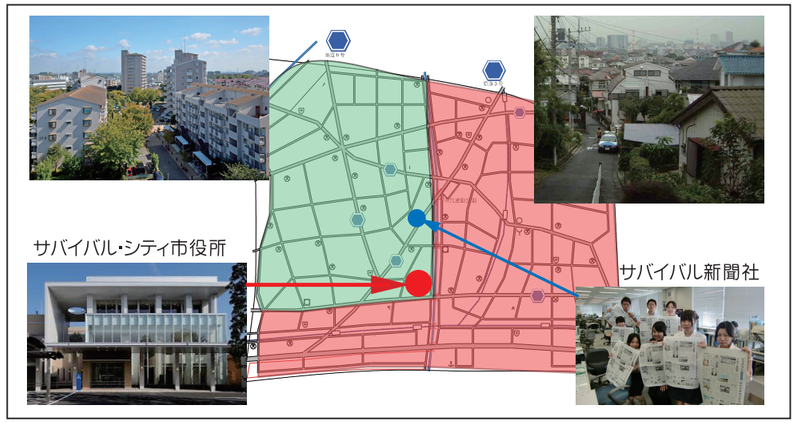
市民自身が、減災に向けた自助・共助の大切さを共通認識として持つことが大切であるという認識から、２０１３年に横浜市総務局が呼びかけ、市民検討会を経て策定された。その中にこども参画の必要性が明記されている。

青少年の役割や、子どもの視点で活動を計画し、遊びの要素も取り入れた教育プログラムをつくり、実施する。

① こどもたちが中心となり、防災ワークショップを重ね、実際に考案した防災プログラムを実施する。

② ①の効果（教育的効果・地域での役割の有用性）を検証する。

もしも、こどものまち【サバイバルシティ】で、首都直下地震が起きたら?



【サバイバルシティ】とは?
集合住宅で計画された
ニュータウン（緑色）と、
木造密集市街地（赤色）
が隣接する地域で構成され、
市役所や新聞社等もある
架空のまち。

プログラムの成果

- 避難所運営訓練等で、こどもと大人の役割を反転することで、こどもだけでなく大人にとっても気づきが多く、イメージトレーニングの機会を提供するプログラムとなった。
- こどもの柔軟な発想が、避難所の運営、仮住まい、復興まちづくりの検討時に発揮され、現行施策にはない案が生まれた。よこはま地震防災市民憲章にある子どもの参画について、具体的な行動を検討した。
- こどもの臨機応変な判断力、観察力、高齢者等への優しさなどが訓練に活かされたが、役割分担や各係の連携等に課題がみられ、大人とこどもの災害後の行動比較について今後も分析を続ける予定である。

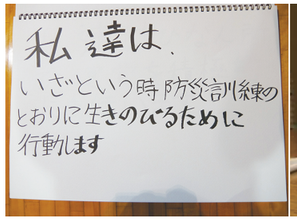
○子ども防災マイスター宣言○

「プログラム終了後、自分たちがやること」を書いてもらいました

【1班】
- 災害後、被災者の方を支援します。
- 私達は、ひなん所のサポートします! ニーズを聞く 子どもの遊び相手になる
- 仮設住宅のアイディアを私達が考えます。
- 復興まちづくりで自分のまちをアピールします。まずは、自分から!!

【2班】
- 私達は大人といっしょに防災訓練を計画・実行します。
- 私達は、いざという時防災訓練のとおりに生きのびるために行動します。
- 私達はひなん所で運営を積極的に手伝います。
- 私達は災害から人を守るまちをつくるために努力します。

【3班】
- 災害に備えて、防災グッズの準備をして、避難訓練への積極的に参加します。
- 避難所・仮設住宅でボランティア→ケアが必要な方への声かけをします。
- 復興まちづくりではさまざまなことに積極的に参加→公園づくり（アイディアだし）や、PR用ポスター等の制作をします!



○大人口出し禁止○

避難訓練の大人の感想は、言わずに書いてもらいました
- 座っていると声かけをしてくれて「悲しい」という言葉に対して「毛布」&「お菓子」を用意してくれた
- 受付での割り振りに判断が早くスバらしい!!
- コミュニケーションボードを使いこなしていた
- トイレにつれていってくれてうれしかった
- 一人でいると「何かニーズはありますか?」と聞いてくれ、とても親切で安心感をおぼえました
- タバコを吸いたいというニーズに対してしっかりと場所を教えてくれた
- 「毛布多くリクエスト」と即答せず「余ったら」と条件付けたのが良かった。後々トラブルを作らない対応です
- 食料（お菓子）の配給時は、全体にアナウンスがあった方が良いのでは?
- 避難者のスキルや場の運営に関わるしくみがあればいいと思う
- 物資係さんが仕切りづくりで疲れている様子。元気なひなん者に手伝ってもらっては?
- なんで一人ずつ呼びながらやるんですか?本番はこんなものじゃないですよね

今後に向けて。

- 横浜市内の小中学校とPTA、地域防災組織等で実施可能なプログラムに整理し、実施マニュアル・パンフレット・学習ツール（解説用映像など）等を作成、公開する。
- こどもの柔軟な発想を活かした避難所運営訓練・事前復興まちづくりプログラムを今後も実施し、こどもの「意外性」や「可能性」を受け止め、活動に活かす大人がいる地域づくりについて検討。実施していく。
- こどもの発達段階に応じたプログラムの検討と理解度の分析をする。

【子ども防災マイスター スタッフ】横浜市立大学：石川永子・三輪律江・金亜伊・杉山昇太・木下寛理・小俣実奈・森春菜・岡由里菜・井上由璃子 ／ NPO 法人 ミニシティ・プラス：岩室晶子・井藤里香 ／ まち処計画室：小口優子